SU 鉱山きのこ（仮称）

サンプルのお裾分け



問い合わせ先：三菱マテリアル株式会社
イノベーションセンター
千葉 一
hachiba@mmc.co.jp

秋田県と岩手県、青森県の県境にある鹿角市、尾去沢鉱山の坑道内にて栽培された

尾去沢鉱山跡

地理院地図 / GSI Maps / 国土地理院
を加工して作成





冬は深い雪景色となる

左写真 : 尾去沢鉱山跡 観光坑道入り口





鹿角市（北鹿エリア）
はジビエ、ホルモンが有名

上写真：ホルモン鍋
of ホルモン幸楽 in 鹿角市

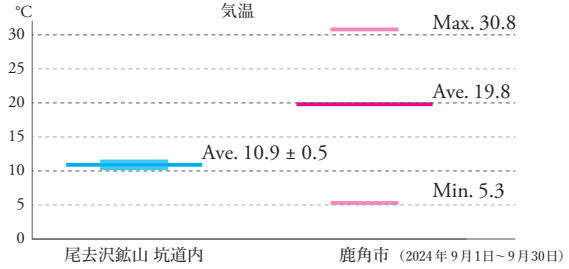
尾去沢鉱山 とは

・708 年に銅が発見され、東大寺大仏鋳造や中尊寺で使用されたと伝えられている
・南部藩等を経て、1889 年に岩崎家の稼業となる
・1918 年に三菱マテリアル株式会社の前身である三菱鉱業株式会社の経営となる
・1950 年には尾去沢以外にも国内に 14 鉱山を保有
・尾去沢では金、銅を主に産出する
・1978 年に閉山

左写真：尾去沢鉱山跡 観光坑道内

尾去沢鉱山 坑道内環境

坑道の総延長は、約 700km。
今回栽培しているのは、その一部中段電車坑道と言われる全長約 1km のエリア。
外気の温度からの影響は少なく、温度は安定している。



尾去沢鉱山 坑道内環境の安全性

坑道内にて栽培されたヒラタケ、タモギタケを検査した結果、ヒ素、カドミウム、水銀、その他重金属は含まれていなかった。

ヒラタケ：2025 年 3 月 14 日 検査
タモギタケ：2025 年 6 月 9 日 検査

環境計量証明事業登録福岡県濃度第 39 号福岡県食品衛生協会指定検査機関
福岡県菓子工業組合指定検査機関
株式会社 ＣＲＣ食品環境衛生研究所
〒813-0062 福岡県福岡市東区松島 5 丁目 7 番 6 号 TEL:092-623-2211
FAX:092-623-2212



三菱マテリアル株式会社の新規事業を総括するブランド“SU”。SUからの新たなブランドとして鉱山きのこ（仮称）を事業化すべく開発中。生産から販売までを担う予定。2025年はタモギタケとヒラタケの栽培を試みました。自社の所有する“坑道”という特殊な環境がきのこの味、香り、食感、外観にどのように影響を与えるのか、栽培試験中。
前代未聞のきのこが生まれる期待と共に日々丹念に育成しています。

2026年の今年は、タモギタケに絞り、傘の大きさによる軸の硬さ（食感）、香り等の違いを認識するべく試験中です。
また、昨年は尾去沢鉱山にて育成したものを“お裾分け”いたしました。
昨年の坑道内に辿り着くまでの除雪作業、雪行の困難を教訓に、今年は静岡県御殿場エリア近郊にあります、弊社インキュベーションセンターにて、坑道内環境（裏面参照）を再現して育成を行いました。
当該プロジェクトが、未だ試験段階にあり、担当者が一人しかいないため、ご了承ください。

＜2026年、インキュベーションセンター内での育成状況＞

B: 傘の直径が
2-4cm 程度



A: 傘の直径が
1-2cm 程度



C: 傘の直径が
4cm 以上程度

菌床は、培養期間を数日違いで短いものと長いものの2種類を用意しました。